

袖もじき

むかし、元の南小学校の正門前を南に向かって少し行った所（本村道）の道端に「袖もじきさん」という「荒神さん」が
ありました。そこには大きな楠の木がおい茂って昼でも薄暗く、村人は気味が悪いといって、ここを通るときは、誰でも足早に
過ぎておりました。そのうえその森には、人をばかす一匹の古だぬきが住んでいて、夜になると人間に化けて、ここを通る娘さ
んや、女の後を追ってきて、

「私をいっしょに連れて行ってください。私もいっしょに連れて……」

と、むかしはみんな着物でしたから、その袖を泣きながら引っぱるのでした。娘さんや女の人は、
あまりの恐ろしさに走って我が家へ帰ってみると、いつのまにか、袖（着物の手とおす所）がもぎ
取られていたということです。

『豊浜のむかし話』より

